

平成25年度 魚沼市音楽部 活動報告

部長 江口 克也

1 はじめに

各種メディアをはじめとして、私たちは、日々音楽に親しみ、音楽に囲まれながら生活している。魚沼市教育振興会小学校音楽部では、子どもたちに音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むことをねらい、実践を重ねている。

2 活動の概要

(1) 総会・第1回小学校音楽部会

- ①期日 平成25年4月17日
- ②会場 堀之内中学校
- ③内容 今年度の活動計画検討

(2) 第2回小学校音楽部会

- ①期日 平成25年8月8日
- ②会場 須原小学校
- ③内容 教育課程伝達講習・情報交換

(3) 第3回小学校音楽部会

- ①期日 平成25年11月19日
- ②会場 堀之内小学校
- ③内容 公開授業・協議会
4年 「発見『大の坂』〇〇〇」
授業者：吉村 智宏先生



3 具体的な取組

(1) 教育課程伝達講習会

広神西小学校の小島良子先生を講師に、平成25年度新教育課程研究集会の伝達講習を行った。今一度、学習指導要領を熟読することの重要性、新設された言語活動が目的とならぬよう留意すること、郷土の伝統的な音楽を教材化することの意義等、ポイントを絞った分かりやすい講習であった。その後、日々の実践の紹介、授業にかける思い、悩み等の情報交換を行い、有意義な部会となった。

(2) 公開授業研修

堀之内地区に伝わる『大の坂』を教材とした鑑賞領域の公開授業であった。4時間の単元を設定し、『大の坂』を実際に歌ったり、保存会の方々に習ったりする活動を通して、音楽の雰囲気やよさが分かり、自分の言葉で表すことができることをねらった授業である。

目標に迫るために授業者が行った手立ては、以下の7点である。

- ①児童にとって、身近な民謡を扱う。
- ②実際に手拍子を付けたり、踊ったり歌ったりして、民謡の世界に浸る。
- ③民謡を音楽の諸要素に分けずに、模倣を通して全体を捉える。
- ④図形楽譜を提示し、民謡を捉える。
- ⑤保存会の方から歌を習ったり、思いを聞いたりする。
- ⑥指導計画を柔軟に変更する。
- ⑦日本伝統音楽の用語を用いる。

音楽に合わせてのアイスブレイキングで始まった授業は、子どもたち、そして指導者が音楽を楽しみ、参観している私たちまでもがウキウキするような1時間であった。



4 おわりに

音楽は、人を励ましたり、和ませたりしてくれる。また、時に記憶と結びつき、あるメロディが流れると、その当時から思い出されたりする。「音楽 大好き！」そんな子どもを育てたい。私たち音楽部では、部内での学び合いを日々の授業に生かすべく、活動を続けている。